

F-50

千葉県富津市富津岬における文化的景観としての海苔養殖景観の変遷に関する研究

—文化的景観の背景にある技術、組織、環境の変化に着目して—

A Study on the Transition of Seaweed Aqua Cultural Landscape as Cultural Landscape in Futtu City, Chiba

- Focus on Changes in Technology, Organization, and Environment -

○木藤貴宏<sup>1</sup>, 阿部貴弘<sup>2</sup>

\*Takahiro Kitou<sup>1</sup>, Takahiro Abe<sup>2</sup>

Abstract: Recently, it takes more interest in cultural landscape. Moreover, efforts to preserve and utilize them have been promoted. In Futtu City, its landscape about seaweed aqua cultural was selected as a Chiba prefecture's cultural landscape in 2008. Therefore this study clarifies the characteristics and transition of seaweed aqua cultural landscape.

1. はじめに

2004年景観法及び文化財保護法の改正前後から、文化的景観に対する関心は高まり、その保全や活用の取り組みが進められている。地域の景観を特に観光振興や産業振興に生かそうとする自治体も多く、千葉県では文化的景観を広く周知する取り組みの一環として、2008年にちば文化的景観を選定した。

千葉県富津市では、地域資源である海苔養殖産業の振興に力を入れており海苔養殖産業に係る景観が、ちば文化的景観にも選定されている。しかし選定に至ってはいるものの、その特性や構成要素といった文化的景観としての価値付けが十分に行われているとは言い難い。

既存研究では、東京湾埋立に係る変遷や人口移動、住民意識、海苔養殖産業の変遷や生業については、詳細な研究がなされているが、文化的景観に着目した海苔養殖景観の分析は十分になされていない。

そこで本研究は、技術、組織、環境の変化に着目し、文化的景観としての海苔養殖景観の構成要素及び特性、そして変遷を明らかにすることを目的とする。

2. 研究対象

千葉県富津市富津岬を対象とする (Figure 1).

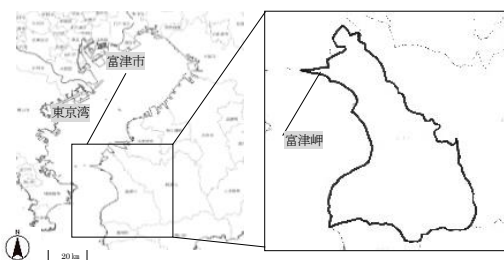


Figure 1. Map of Futtu City

3. 研究方法

文化的景観の背景について把握するため文献調査を行い、さらに詳細に把握するためヒアリング調査を行う。対象は文化財審議委員及び市関係者、漁業関係者とする。さらに博物館及び資料館内の史料から古写真、模型、絵画等を収集した。そして技術、組織、環境の変遷に着目しながら、重要文化的景観報告書を参考に構成要素及び特性を抽出し、景観変化の分析を行う。

4. 結果と考察

富津市では、1900年代に入ってから本格的に海苔養殖が開始された。一方、隣接する君津市では1800年代から始まり、次第に富津村を含めた周辺村々へ拡大した。しかし、戦後の埋立開発により富津市以外の内湾海苔養殖は減衰し、地域資源として保護する意識が高まり、ちば文化的景観を選定したと考える。

(1) 全景と領域

ちば文化的景観に選定された海苔養殖景観の全景は、岬と洲、内海の東京湾及び外海の太平洋から成る (Table 1)。

Table 1. Panoramic View and Region

| 全景 | 領域 | 概要   |
|----|----|--|
|    | 洲  | ・洲は埋立による潮の流れの変化で砂が運搬されず様相を常に変化させてきたが、現在もその景観が残る。波で砂が流されないよう消波ブロックが砂浜を囲うように置かれる。また洲の先には海堡がある。 |
|    | 内海 | ・江戸から行われる鹽立漁とともにべた流し海苔養殖が養殖期間見ることが出来る。波はなく極めて穏やかであり外海とは対称的である。                               |
|    | 外海 | ・海苔養殖のべた流しが養殖期間見ることが出来る。海苔網は島のような長方形で、海面に因の形成と群化を成す。内海に比べ波しぶきが上がるほど荒く内海とは対称的である。             |
|    | 岬  | ・岬には松林が大部分を覆い、かつての砲台や漁村集落がまじりをもって存在する。   |

(2) 構成要素と歴史的背景

全景から抽出した領域において構成要素を抽出し、各年代の景観の出現と消失の過程を示す (Table 2)。

1 : 日大理工・学部・まち 2 : 日大理工・教員・まち

Table 2. Components in Region

| 領域     | 構成要素   | 1800<br>~1849 | 1850<br>~1899 | 1900<br>~1949 | 1950<br>~1999 | 2000<br>~現在 |   |
|--------|--------|---------------|---------------|---------------|---------------|-------------|---|
| 洲      | 砂洲     | ○             | ○             | ○             | ○             | ○           |   |
|        | 第一海堡   | —             | △             | ○             | ○             | ○           |   |
| 内海     | 海苔ヒビ   | ○             | ○             | ○             | △             | ×           |   |
|        | 海苔網    | —             | —             | △             | ○             | ○           |   |
|        | 漁船     | ○             | ○             | ○             | ○             | ○           |   |
|        | 流通船    | ○             | ○             | ○             | ○             | ○           |   |
|        | 工場群    | —             | —             | —             | △             | ○           |   |
|        | 漁港     | ○             | ○             | ○             | ○             | ○           |   |
|        | 天日干し場  | ○             | ○             | ○             | △             | ×           |   |
|        | 倉庫     | —             | —             | △             | ○             | ○           |   |
|        | 潮干狩り場  | —             | —             | —             | △             | ○           |   |
|        | 宗教施設   | ○             | ○             | ○             | ○             | ○           |   |
|        | 海苔養殖施設 | —             | —             | —             | △             | ○           |   |
|        | 外海     | 海苔網           | —             | —             | —             | △           | ○ |
|        |        | 漁船            | —             | —             | —             | △           | ○ |
| 流通船    |        | ○             | ○             | ○             | ○             | ○           |   |
| 砂浜     |        | ○             | ○             | ○             | ○             | ○           |   |
| 海水浴場   |        | —             | —             | △             | ○             | ○           |   |
| 漁港     |        | —             | —             | —             | △             | ○           |   |
| 陸上採苗器具 |        | —             | —             | —             | △             | ○           |   |
| 倉庫     |        | —             | —             | —             | △             | ○           |   |
| 松林     |        | ○             | ○             | ○             | ○             | ○           |   |
| 防風櫓    |        | —             | —             | —             | △             | ○           |   |
| 岬      | 漁村     | ○             | ○             | ○             | ○             | ○           |   |
|        | 台場     | ○             | ○             | △             | △             | △           |   |
|        | 砲台     | —             | △             | ○             | △             | △           |   |
|        | 陸軍試験場  | —             | —             | ○             | △             | ×           |   |

※一：出現前 ○：出現 △：出現消失過程 ×：消失

砂洲や松林などの自然基盤と漁船や流通船といった往来，人々の生活が営まれた漁村集落を背景に，軍事開発や埋立開発の環境変化及び養殖技術開発によって海苔養殖景観は変化しながら形成された。

これらの構成要素が変化した歴史的背景について示し (Table 3)，各領域における構成要素及び特性と歴史的背景についてより詳細な海苔養殖景観構成要素の変化を示す (Table 4)。

富津海苔養殖の生業は，江戸の莫大な需要と先発漁村の存在，家族経営による幼少期からの技術習得，恵まれた漁場環境，材料調達の利便性といった特徴を有し，維持継承したと考える。海苔養殖景観は埋立開発

前後において手作業による家族や親戚のまとまりで行われていたものが，漁場と組合員減少による効率化により機械化され，かつての海苔養殖作業工程は半減し景観も消失していることがわかる。

### 5. まとめ

本研究では，技術，組織，環境の変化に着目して，文化的景観としての海苔養殖景観の構成要素及び特性，そして変遷を明らかにしてきた。今回は千葉県富津市富津岬の海苔養殖文化的景観を対象としたが，今後は海苔養殖景観を有する他地域との比較も行い分析をより精緻なものにする必要がある。

### 6. 参考文献

- [1] 富津市史編さん委員会：「富津市史通史」，1982
- [2] 富津市史編さん委員会：「富津市のあゆみ」，1983
- [3] 織本泰：「富津漁業史」，1981
- [4] 織本泰：「富津漁業協同組合資料」，1981
- [5] 富津地区転業対策等記念事業実行委員会：「富津水産捕採史」，1995
- [6] 小沢洋，松本次：「富津埋立記念館解説書」，2004
- [7] 菱田忠義，野中徹：「ふるさとの想い」富津写真集，1984
- [8] 栗原克栄：「木更津・君津・富津・袖ヶ浦の今昔」，2010

Table 3. History of Landscape

| 年代            | 技術   | 組織  | 環境  |
|---------------|--|---|---|
| 1800<br>~1849 | ・近江屋甚兵衛により千葉県内で初めて富津周辺村々に海苔養殖が伝わる。               | ・海苔養殖場に絡んだ漁場紛争が各地で頻発する。                         | ・砲台が築かれる。<br>・暴風雨が頻発し，家屋や漁師に大きな被害が出る。           |
| 1850<br>~1899 | ・平野武治郎がヒビを移動させ成長を早める移植法の技術を開発し生産量が飛躍的に増加する。      | ・村の合併とともに組合が組織され始め，家族経営から組織で行うようになる。            | ・海堡が築かれる。<br>・アメリカ軍による砲撃や高波により被害が出る。            |
| 1900<br>~1949 | ・海苔養殖生産効率化のため材料が変化する。<br>・生活サイクルが解明され人工採苗が導入される。 | ・組合の合併や再編成などが行われ漁政が確立される。                       | ・東京湾要基地帯に選定され防潜網などが敷かれる。<br>・大火災が頻発し，甚大な被害を与える。 |
| 1950<br>~1999 | ・埋立による養殖場の変化に伴い，べた流しや冷凍網保存などが取り入れられる。            | ・埋立により漁場の縮小と組合員の減少が生じる。新たに組合が組織され再興への取り組みがなされる。 | ・長期交渉を経ながら埋立て工事が進められる。<br>・富津沖の石油運搬船が墜礁し被害が出る。  |
| 2000<br>~現在   | ・埋立により組合員が減少し陸上採苗や乾燥などの機械化が行われる。                 | ・組合の合併等を経て現在の2つの組合にまとまる。                        | ・漁場変更に伴い整備工事が進められる。                             |

Table 4. Landscape Change of Technology, Organization and Environment

